

茶・缶詰・かつお節

～静岡の地場産業 再考～

参加費
無料
要・事前申込

茶、缶詰、かつお節を静岡の地域産業の典型として取り上げ、アジア諸地域との技術交流や人的ネットワークなど、グローバルな視点からとらえ直すことを試みる。

特に、生産・加工技術の開発や改良、それを担った人々の交流に着目し、静岡の地域産業がアジアとの関わりの中かでどのように発展してきたのかを学ぶ機会としたい。また、近年失われつつある関係資料の現状を把握し、資料の発掘、整理、保存についても考える場とする。



令和8年

11月30日 月

13:30～15:45 (13:10開場)

会 場

もくせい会館 富士ホール (定員:会場100名)
静岡市葵区鷹匠3-6-1



申込方法

ホームページ又は右記の二次元コードからお申込みいただけます。

●申込期限: 令和8年11月26日(木)



主催・お問い合わせ

静岡県立大学グローバル地域センター

プログラム (敬称略)

趣旨説明

静岡県立大学グローバル地域センター
特任准教授 横井 香織

基調講演

「抹茶ブームは日本茶をグローバル化した」
静岡県立大学茶学総合研究センター
センター長 中村 順行

講演

講演①「静岡缶詰産業の黎明期について」
フェルケール博物館
副館長兼学芸部長 椿原 靖弘

講演②「焼津かつお節産業の発展と
技術交流」
静岡産業大学総合研究所
客員研究員 川口 円子

閉会挨拶

静岡県立大学グローバル地域センター
センター長 濱下 武志

茶・缶詰・かつお節

～静岡の地場産業 再考～



プロフィール



中村 順行 なかむら よりゆき

静岡県立大学茶学総合研究センター センター長

静岡県に奉職後、茶業試験場を中心に、茶の育種・栽培・加工技術の研究に長年携わる。「おくひかり」「香駿」「つゆひかり」などの茶品種の育成にも貢献。現在は、茶の生産・品質・機能性からマーケティング、さらには抹茶の海外展開まで幅広く研究するとともに、日本茶の魅力をさまざまなメディアを通じて発信し、茶業の発展に取り組んでいる。



椿原 靖弘 ちんばら やすひろ

フェルケール博物館 副館長兼学芸部長

明治大学文学部卒業、藤枝市に学芸員採用される。2011年、財団法人清水港湾博物館（フェルケール博物館）副館長兼学芸部長となり現職。伊豆屋伝八文化振興財団理事、常葉大学非常勤講師、東海大学非常勤講師等。



川口 円子 かわぐち みつこ

静岡産業大学総合研究所 客員研究員

焼津市出身。静岡大学卒。日本民俗学会会員・静岡県民俗学会理事・焼津市文化財保護審議会副会長。静岡県史や焼津市史、大仁町史、富士宮市史など県内の自治体史編纂に携わる。著書・論文に『焼津かつおぶし物語』（共著）、「本船方・夏船方にみる焼津カツオ漁船の労働力編成」（『中日本民俗論』）等がある。